

テーマ:咬合が果たす役割の大きさを知る

「新・顎咬合学」が国民の健康を支える

—全身との関わり・診断と構成基準・そして未来—

日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座主任教授

日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学主任教授

小出 馨

咬合は、顎口腔系の機能、すなわち咀嚼、嚥下、呼吸、発音、口腔感覚、審美、姿勢維持、身体運動能力などの重要な機能と密接に関連するばかりでなく、全身の健康維持・増進にも大きく影響を及ぼす極めて重要な要素です。また、咬合は前頭前野をはじめとする脳機能を活性化し、さらに学習・記憶能力や、生きることへの意欲の回復、精神・心理状態の改善にまで影響し、これらはいずれも日々の生活の質を左右し、健康寿命や人生の満足度の観点からも極めて重大な役割を果たしています。

また近年、患者さんから咬合との関連性について、顎関節や頸椎をはじめとする脊椎、姿勢や全身バランス、自律神経バランス、さらにそれらの不調和に起因する疼痛や運動障害、聴覚障害、睡眠障害など、様々な症状についての問い合わせが大変多くなっており、患者さんの咬合に対する認識が大きく変化し、その関心の高さを痛感させられます。既に超高齢社会を迎えた日本では、近未来100歳を超える高齢者が激増する中で、国民の健康を支える私達には、咬合が全身に及ぼす影響と咬合治療の果たす役割の大きさを十分に認識するとともに、咬合と全身に関する診断と治療内容の更なる高度化が強く求められています。

今回の講演では、学会が示す『新・顎咬合学』の方向性に即して、私たちが日々の臨床で押さえておくべき咬合に関する重要事項を、なるべく分かりやすく解説するようにとのご指示をいただいています。具体的には、咬合と全身との関わり、姿勢と下顎位の関連性、顎口腔系の診査・診断、咬合構成の基準、咬合器の選択基準と活かし方、これらの内容を盛り込むようにとのことです。大きなテーマですが、国民の健康を支える『新・顎咬合学』の見地から、改めて咬合の果たす役割の大きさをご一緒に確認したいと思っています。

どうぞ宜しくお願いします。